

★ ハスモンヨトウ情報（豆類）★

現在、平年比多い発生を認めています
今後、大豆、エダマメ、小豆での発生に
注意してください

ハスモンヨトウの発生状況

- (1) フェロモントラップにおけるハスモンヨトウ成虫の誘殺は、京田辺市では7月第2半旬に、京丹後市では6月第6半旬にピークとなり、亀岡市では現在、ピークを迎えようとしています(図1)。また、京田辺市、亀岡市、京丹後市における6月第5半旬～7月第4半旬の誘殺数の合計値はそれぞれ203.4頭(平年値107.8頭)、321.9頭(例年値85.0頭)、497.0頭(平年値142.4頭)で、いずれも**平年比(例年比)多くな**っています。
- (2) 7月中旬に丹後、中丹、南丹地域の黒大豆ほ場で実施した巡回調査では、幼虫(写真1)の寄生や白変葉の発生(写真2)は認められませんでした。農林センター(亀岡市)の黒大豆エダマメでは白変葉が、エビイモでは卵塊が散見されています。
- (3) 梅雨が明け、今後、**ハスモンヨトウの発生、増殖に好適な高温条件が続きます**ので、被害の拡大が懸念されます。

防除上の留意点

- ほ場を見回り、**若齢幼虫分散前の白変葉(写真2)の早期発見、除去に努めてください。**
- 小豆では、子実害虫類(アズキノメイガ、マメノメイガ、サヤムシガ類など)、オオタバコガ等の発生にも注意してください。
- 齢が進んだ幼虫は薬剤効果が著しく低下するので、若齢幼虫期の防除が特に重要です。
- 農薬を使用する際には、使用基準を遵守して適正に使用してください(表1、2、3参照)。なお、最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬情報」をご覧ください(<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>)。



写真1 ハスモンヨトウ幼虫(矢印)



写真2 黒大豆で発生した白変葉(矢印)

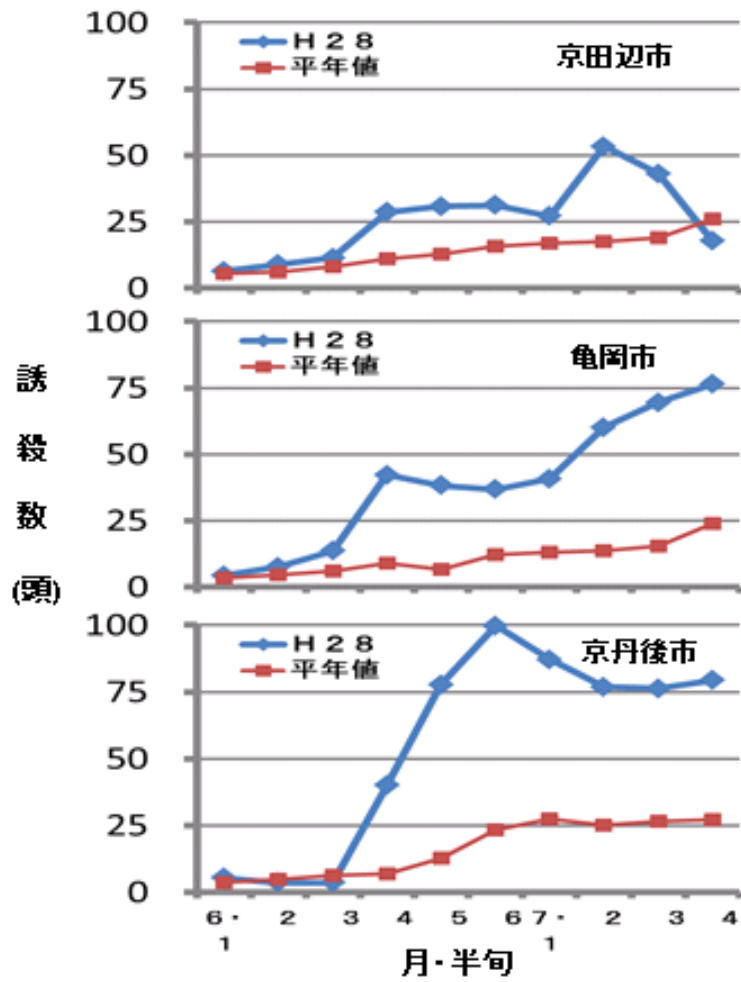


図1 フェロモントラップによるハスモンヨトウの発生推移